

## 第2回オープンキャンパスに過去最高の4,877人が参加

7月28、29日に第2回オープンキャンパスを開催しました。気温が30度を超える真夏日にもかかわらず、来場者数は両日合わせて4,877人。昨年を上回る過去最高の来場者を記録しました(保護者など付添者は除く)。

「模擬授業」は第2回オープンキャンパスだけで行われる毎年人気の企画。興味のある学部・学科の模擬授業を自由に受講できる貴重な機会とあつて、満席となった授業もありました。参加した高校生からは大学の授業って想像以上におもしろい!、「志望する学部のイメージが明確になりました」などの前向きな声がありました。また、公募制推薦入試対策講座(基礎学力試験(国語・英語)、「小論文」)を両キャンパスで実施。本学教員が、入試の攻略ポイントや効果的な受験勉強の方法などをわかりやすく解説しました。

さらに、大型スクリーンを使って大学の学びや入試方法などについて解説する「全体説明会」、学科(専攻)、入試や教職、学生生活、就職、留学などに関して教員や担当スタッフに直接質問できる「相談コーナー」、在学生スタッフが学内施設を案内する「キャンパスツアー」、各学部・学科による趣向を凝らした「特別企画」なども好評でした。

さまざまな企画内容で、愛知淑徳大学の学びを体感できた2日間。来場したみなさんは、充実した一日を過ごしたオープンキャンパスを満喫していました。



## 2011年度留学生別科修了式

2011年度留学生別科修了式が5月21日に国際交流会館(アイハウス)で行われました。17人の修了生が本学での留学生生活の思い出を胸に式に臨み、島田学長からそれぞれに修了証書が授与されました。

その後、修了生を代表し、ノルウェー出身のJon Fredrik Egehaug(ジョン・フレドリック・ヘラム)さんが、日本での留学生生活を支えてくれた別科教員、友人、国際交流センタースタッフへの謝辞を日本語で述べました。島田学長からは本学留学生別科で学んだことを活かし、帰国後も日本と母国の友好の架け橋になって欲しいと、修了生の今後の活躍に期待を込めお祝いの言葉が贈られました。

修了式後は記念撮影とパーティーが行われ、修了生は別科教員やクラスメートたちと思い出話に花を咲かせていました。修了生たちは母国の大学・大学院に戻り、学業を継続する者、就職する者、留学生別科での学びをさらに深めるため引き続き日本にとどまり進学する者など、皆それぞれに新しい目標に向かって歩み始めています。



## 瀬戸信用金庫との産学連携に関する協定書調印式、日進市との連携に関する協定書調印式を開催

4月24日に産学連携に関する瀬戸信用金庫との協定を結ぶ調印式が長久手キャンパスで開催されました。鹿島幸男理事長と島田修三学長の間で調印が交わされ、地域貢献活動に関する意見交換も行われました。

さらに、5月18日には日進市との連携協定調印式が開催され、萩野幸三市長と島田修三学長の間で調印が交わされました。この日進市との協定締結は、すべての学生に社会での学びの機会をできるだけでなく多く提供し、社会の発展に貢献できる人材を育成したいという気運の高まりを受けて実現しました。



## メディアプロデュース学部 清水良典教授が「第65回 中日文化賞」を受賞

メディアプロデュース学部の清水良典教授が、名古屋を拠点に質の高い評論活動を積み重ねてきた功労が称えられ、「第65回 中日文化賞」を受賞しました。

清水教授は昭和61年に谷崎潤一郎の評論で群像新人文学賞を受賞して文壇にデビュー。本学で教鞭をとりながら、教育者として、文芸評論家として第線で活躍し、中部地区の文芸振興に貢献してきました。

5月31日、中日ハレスにて開催された贈呈式スピーチで清水教授は深い謝辞を述べ、「学生の文章指導に携わり、言葉の力、文章を構成する力が、人間を根底から動かしている大きき力だと考えるようになった。その力の輝きを感じながら、今後も教育と文学に関わる仕事に邁進してまいります」と熱く語りました。



## 長久手キャンパス 国際交流会館・AS保育室 新築工事の地鎮祭を実施

6月26日、長久手キャンパスに新しく建設される国際交流会館及びAS保育室の整備工事の着工に先立ち、北門守衛室東側の建設予定地に地鎮祭が挙行されました。

祭場には、小林素文理事長や島田修三学長をはじめとする大学関係者20人、設計監理を行う株式会社日建設と施工を行う清水建設株式会社の方々11人が参集しました。

厳粛な雰囲気の中で、地鎮行事、玉串奉奠等、すべての祭儀が滞りなく執り行われました。参列者一同が神酒を拝載し、工事の安全と守護を祈願して、地鎮祭をめでたく納めました。



# Campus キャンパストピックス Topics

大 学

## 栗原健太郎+岩月美穂 studio velocity展

7月21日から8月5日までの16日間、長久手キャンパス 8号棟にて「栗原健太郎+岩月美穂 / studio velocity展」が開催されました。栗原氏と岩月氏によるstudio velocityは、今年鋭い建築家ユニットです。この展示会は両氏のご協力のもと、都市環境デザインコースの3年生30人が会場プランの考案、施工、宣伝活動、展示会の運営などに尽力。企画段階からプロの建築家と共に話し合いを重ね、最後まで妥協せずにとことん突き詰める姿勢などを学んだことは、学生たちにとって大きな経験になったことでしょう。この経験が今後の課題や学習のみならず、これからの生き方にもいい影響を与えることを願っています。



## ワーク〇キューブ展

6月19日から7月5日まで、都市環境デザインコースミニギャラリーにて、名古屋を拠点に活躍する二級建築士事務所、株式会社ワーク・キューブの建築展を開催しました。数々の受賞した住宅の模型やパネル、ポर्टフォリオなどが展示され、6月25日には関連講演会が行われました。建築展・講演会ともにテーマは「暮らしのつくり方」。近年手がけた住宅の設計図や写真をスクリーンに映し出しながら、学生たちに「生活の実感」を持つて丁寧に空間づくりを行うことの大切さをアドバイスしてくださいました。また、講演会の質疑応答では、ワーク・キューブで働く都市環境コースの卒業生も後輩たちに熱くメッセージ。プロにつながる道を拓くための気づきにあふれた、建築展、講演会となりました。



## プロに学ぼう! 「ブランド、デザイン、シビックプライド」講演会

5月24日、メディアアプロデュース学会主催の講演会「プロに学ぼう! 『ブランド、デザイン、シビックプライド』」を開催しました。講師は「ものごとの編集」を仕事にされている編集家/プロジェクティブエディターの紫牟田伸子氏。出版やデザイン界の第一線で華々しく活躍されてきた紫牟田氏に、「いいものをきちんとユーズンに届ける(売る)」ための地方の地域活性化事業などについて実例を交えてお話しいただきました。紫牟田氏は「ブランドものの価値イメージの共有」「デザインよりよいコミュニケーションのための手段」「シビックデザイン」自分のまちや仕事への責任と誇りを解説。地方のものづくりとデザインによる社会貢献について学生たちは多くを学んでいました。



## 「愛知淑徳大学 体験講義2012」で高校生が在學生と共に講義を受講



高校1〜3年生を対象に、本学で開講されている授業を在學生と共に受講できるイベント「愛知淑徳大学 体験講義2012」を見て、聞いて、触れて、授業体験!」を10月8日に開催しました。長久手・星が丘両キャンパス合わせて200人以上の高校生が参加し、大学ならではの高度な学修をひと足先に体験していました。また、個別相談会も実施し、入試や学生生活、卒業後の進路などに関するさまざまな質問に、教職員が親身になつて答えていました。真剣な表情で授業を受けると共に教職員や在學生との交流を楽しんでいた高校生たちは、各学部・学科(専攻)の学修のおもしろさや奥深さ、本学で学ぶ意義を体感して、大学進学に対する意欲をさらに高めたことでしょう。

## 愛知淑徳短期大学同窓会「淑桜会」50周年記念行事を開催

この50周年記念行事は、同窓生、そして愛知淑徳学園と共に歩み続ける「淑桜会」の新たな一歩となりました。



2001年3月に40年の歴史に幕を閉じた愛知淑徳短期大学。その学び舎から25000人以上もの同窓生が社会に羽ばたき、「淑徳魂」を活かし、それぞれのステージで輝いています。母校への思いも尽きることなく、愛知淑徳短期大学同窓会「淑桜会」で花を咲かせ続けています。そして淑桜会が創立50周年を迎えた2012年、5月から順に記念行事が開催されています。淑徳晴れとなった5月27日に行われた「伊勢湾ランチ&クルーズ」は、定員500人の限定イベント。校歌も演奏されたステージ企画など多彩な催し物が開かれました。各世代の同窓生が参加し、在学中の賑やかさそのままに仲間との交流を楽しんでいました。また、6月17日には「淑桜会総会」「文化・芸術祭」を中電ホールで開催。同窓生による舞踏・音楽ステージ、作品展示などが華やかに行われました。淑桜会会長の岩田素幸さんは「皆さまと50周年を祝うことができ、心から幸せを感じています。今後も絆を大切にし、淑桜会の活動を続けたいと思っております」と笑顔で語りました。